

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

令和元年 6月 14日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 医学研究科、糖尿病・内分泌・栄養内科

職名・学年 博士課程 4年

氏 名 徳本 信介

助成の種類	令和元年度・国際研究集会発表助成		
研究集会名	American Diabetes Association's 79th Scientific Sessions		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Generation of a Novel Mouse Model to Study β -Cell Proliferation		
開催場所	Moscone Center, San Francisco, California, USA		
渡航期間	2019年 6月 6日 ~ 2019年 6月 12日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円	
	使用した助成金額	200,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空費	154,703円
		学会参加費	32,133円
		学会抄録登録費	9,379円
その他旅費		3,785円	
(超過分は教室運営費より補填した)			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は誠にありがとうございました。国際学会への参加意欲が高まり、更なる研究成果の発展へと繋がるのではと感じました。在学中に複数回異なる学会に発表することもあるので、一人2~3回など複数回助成の交付がされたらいいのではないかと思います。		

成果の概要 / 徳本信介

医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科 大学院 (博士課程) 4年

研究集会：第 79 回アメリカ糖尿病学会学術集会

American Diabetes Association' s 79th Scientific Sessions

開催期間：令和元年 6 月 6 日 ~ 令和元年 6 月 12 日

開催地：アメリカ合衆国、カリフォルニア州、サンフランシスコ、Moscone Center

次回開催予定：アメリカ合衆国、シカゴ

【国際会議の概要】

ADA scientific meeting は75年以上開催されており、糖尿病学における世界最大級の学術集会である。例年、米国のみならず全世界から糖尿病学の最新の研究成果が発表され、糖尿病研究における最新の話題や知見が得られる。また、学会会場では、基礎医学・臨床医学など多分野にわたる研究者同士の交流や情報交換が期待される。我々は増殖中の膵β細胞の定量化を可能にした新たなマウスモデルを作製したため、本会を利用して、このマウスモデルの普及に努めた。

【発表内容 / 所感】

私は、増殖中の膵β細胞の定量化を可能にした、新たなマウスモデルによる増殖中膵β細胞量の新規評価手法に関して口頭にて発表した。私の発表セッションでは、膵β細胞の増殖に対して興味を持っていただいた参加者と、増殖中のβ細胞量評価手法やそのメカニズムについて、議論することができた。また、他の発表者に対しても、会場で質問し、交流を深めることができた。一方で、他の口演会場でも、基礎・臨床ともに、多くの最先端の研究についての演題発表を聴くことができたため、日頃最新の知識へアップデートしておく必要性について痛感した。特に、膵β細胞の増殖に関するセッションでは、米国を含め世界的に、この分野の研究者が直面している課題や障壁について再度確認することができ、非常に良い機会となった。また私の発表に対して、会場より複数の質問があり、会場の参加者が積極的に私の発表内容を理解し議論しようとしている姿勢が印象的であった。どこで誰のもとで研究しているのかというよりも、研究内容次第で評価される雰囲気を感じたことは自信につながると感じた。さらに会期中、米国に留学中の当教室から卒業された研究者とも交流を持つことができ、今後の留学への助言を受けることができた。

【謝辞】

本会に参加・研究成果を発表することで、京都大学での学術成果を披露できたので、

非常に良い機会になったと感じています。ご援助頂きました京都大学教育研究振興財団に心より感謝申し上げます。